

平成 28 年度 学校経営計画及び学校評価

1 めざす学校像

創立 75 年の歴史と伝統のもと、3 年間の落ち着いた学習環境の中で生徒一人ひとりの可能性を最大限に引き出し、進路希望を実現できる学校をめざす。学校のキャッチフレーズとして『夢・その扉を開くのは君だ！』を掲げ、将来の夢の実現に向けて取り組むことができる以下のような生徒の育成を図る。

(1) 自らが抱いた「高い志」や「将来の夢」の実現に向けて、積極的に学力向上をめざす生徒
 (2) 学校生活の充実に向け、他の生徒と協調・協力しつつ、学校活動（学級活動・生徒会活動・部活動・ボランティア活動等）に積極的に取り組む生徒
 (3) 学校や社会の一員として正しいモラルを持ち、規律を守ることができる生徒

2 中期的目標

- 1 確かな学力の育成を図りながら、進路実現をめざす取組みの推進
 - (1) 生徒の学力を最大限に引き出す
 - ア わかりやすく、魅力のある授業の実施
 - ① 教員の授業力の一層の向上に努めるとともに、授業の展開方法や効果的な補助教材の作成を工夫するなど、生徒の学習意欲の向上を図る。
 - ② 授業力向上支援チームを組織し、モデル研究授業や教員相互の授業見学、生徒の授業評価アンケートの活用等により、全校的に授業力向上に取り組む。また、習熟度別授業、少人数授業のあり方についても検討する。
 - イ 講習・補習の充実

進路指導部と教務部が連携を密にして放課後や長期休業中の講習・補習を実施し、進路実現に向けた取組みを充実させる。
 - (2) ビジネス情報コースの充実・発展

授業内容と資格取得に向けた取組みを充実させ、生徒の進路実現に活かせるコースとして発展させる。
- 2 「高い志」を育み、「将来の夢」を実現する指導体制の再構築
 - (1) 進路指導室の生徒棟内への移設やアクティブラーニンググループの設置等により、進学・就職に向けて生徒の可能性を高めるサポート体制を充実させ、さらなる進路実現をめざす。
 - (2) 3 年間を見通した志学、キャリア教育と人権教育を連動させた生徒育成プログラムを構築する。
 - ア 「総合的な学習の時間」と LHR を活用する。
 - (3) 個別の進路希望に応じた取組みの充実
 - ア 生徒一人ひとりの進路カードの作成、活用により、計画的な進路指導を行うとともに、個々の進路希望に応じた情報提供を適切かつ迅速に行う。
- 3 豊かな心の育みと自主性および規範意識の育成
 - (1) 人権教育の推進
 - ア いじめ・差別をしないさせない意識を醸成し、安全で安心な学校づくりに努める。
 - (2) 生徒会活動や部活動の活性化を通じた自主性の育成・向上
 - ア 学校行事の活性化に向け生徒の自主的な取組みを進める。
 - イ 体験入部期間を設けるなど部活動を身近なものとして捉える工夫をする。また、地元中学校との交流を進める。
 - (3) 規範意識を醸成し、主体的に規律を守る生徒の育成を目的とした全教職員による生徒指導体制の確立
 - ア 全教員の共通理解のもと、遅刻撲滅に向けた指導体制を再構築するとともに、家庭との連携協力を図る。
 - イ 頭髪・制服指導など、日々、生徒と向き合う指導を粘り強く継続する。
 - ウ 交通マナーの向上を図るための講習会を実施する。
 - (4) きめ細やかな保健指導と教育相談体制の充実
 - ア 生徒情報の共有化を進め、全教員がカウンセリングマインドを持って生徒指導に当たる。
 - イ 支援教育コーディネーターを任命し、生徒個別の支援、サポート体制づくりを進める。
- 4 総合的な学校力の向上
 - (1) 経験の少ない教員やミドルリーダーの育成と各種校内研修の充実
 - (2) ICT 活用と実験・実習、体験的な教科指導の充実
 - (3) 学校の組織的運営と校務の効率化および情報共有
 - (4) 地域への発信および広報活動の充実
 - ア 中学校、保護者、教育関係者を中心に積極的な情報発信および広報活動を行うことで学校理解を図り、地域に根ざした学校づくりを行う。
 - イ 生徒参加による学校説明会や中学校訪問等を企画実施し、本校の教育活動の一層の理解を図る。

【学校教育自己診断の結果と分析・学校協議会からの意見】

学校教育自己診断の結果と分析 [平成 28 年 11 月実施分]	学校協議会からの意見
<p>【生徒の学校教育自己診断（抜粋）】 自分が学びたい科目を選択することができる 77% 学校は進路についての情報を知らせてくれる 77% （課題）生徒会活動は活発だと思う 41% ⇒ 活動内容は増えている</p> <p>【保護者の学校教育自己診断（抜粋）】 学校は保護者や地域の人が授業を参観する機会を設けている 89% 学校は保護者の相談に適切に応じてくれる 87% （課題）PTA 活動に参加することがある 15% ⇒ 気軽に参加できる楽しい活動を工夫する必要がある</p> <p>【教職員の学校教育自己診断（抜粋）】 生徒による問題行動が起こった時、組織的に対応できる体制が整っている 93% （課題）進路個人カードは有効に活用されている 54% ⇒ 進路指導の有効なアイテムとして様々な活用を考えていく</p>	<p>第 1 回（7/6） ・高校でもキャリアガイダンスをしっかりと生きていくことを教えていく必要がある。 ・泉大津の校風や学校説明会の雰囲気がいいためもっと知らせるべき。先生方が一生懸命やってきた良さをアピールするとよい。</p> <p>第 2 回（11/11） ・校舎の老朽化があるが、生徒・保護者は割り切っているはず。 ・どの授業も整然と行われている。実技は特に楽しそうに取り組んでいた。 ・地域の青年会議所と連携した 2 年生の模擬選挙（政治的教養を育む取組み）の取組みがよい。地域の青年の活動も見ることができる。</p> <p>第 3 回（2/17） ・生徒の学校教育自己診断「担任以外にも気軽に相談できる先生がいる」の項目は 5 年前より倍増して 56%、保護者の「子どもの心身の健康について気軽に先生に相談できる」が 84%。泉大津高校の先生方の取組みの成果がここに出ている。 ・各種データの集計、分析が優れており、それを踏まえて次の取組みを考えている。</p>

3 本年度の取組内容及び自己評価

中期的目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標	自己評価
1 確かな学力の育成を図りながら、進路実現をめざす取組みの推進	1 (1) 生徒の学力を最大限に引き出す ア わかりやすく、魅力のある授業の実施	<p>ア・全校的な授業力向上の取組みとして、授業力向上支援チームを組織し、生徒の学習意欲を向上させる授業展開方法や効果的な補助教材の工夫・開発（ICT 活用を含む）授業アンケート結果をふまえた各教科での検討等を行い、授業アンケート数値の向上をめざす。</p> <p>・昨年度に引き続き「泉大津高校のめざす授業」のモデル研究授業の実施と実施後のフィードバック研修を授業力向上支援チームで企画実施し、参加者増を図ることで全体としての取組みを充実させる。</p> <p>・年2回の教育産業学力診断を継続実施するとともに、生徒にとってより効果的なデータ分析会を実施する。</p> <p>・進路指導部主催研修として教員対象データ分析会を継続実施することにより、生徒の進路実現に対する各教員の意識を高め、進路実績の向上をめざす。</p> <p>・授業力向上に向けた教員相互の授業見学を行う。</p> <p>・英語・数学の習熟度別少人数展開授業について学力向上の観点から総括し、より効果的な授業を行う。</p>	<p>ア・授業アンケート学校平均を上昇させる。(H27:3.04)</p> <p>・生徒の授業満足度をH30までに80%へ上げる。(H27:75%)</p> <p>・授業アンケートの各教科数値上昇数値上昇教科数(H27:8)</p> <p>・モデル研究授業を年2回実施 研究授業実施後のフィードバック研修参加者増(H27:32名)</p> <p>・学校教育自己診断「データ分析会は役立っている」 肯定意見 生徒55% 教員70% をめざす。 (H27 生徒:51% 教員:65%)</p> <p>・相互授業見学:全教員3回以上</p> <p>・各教科で少人数授業の効果検証方法を構築する。 (英語・数学)</p>	<p>ア・授業アンケート学校平均は3.04で昨年と同じ(○)</p> <p>・H28:75.0%(○)</p> <p>・H28:8(○)</p> <p>・1回実施にとどまった。フィードバック研修は開催できず。(△)</p> <p>・生徒51% 教員73%(○) 教員の肯定意見が上昇している。</p> <p>・ほとんどが達成(○)</p> <p>・授業アンケート「授業を受けて知識・技能が身についた」の項目を全科目3.0以上にする。 数学2.9 英語3.0(○)</p>
	イ 講習・補習の充実	イ・進路指導部と教務部が密に連携して放課後や長期休業中等に講習・補習を実施する。	イ・学校教育自己診断「生徒の講習参加率」を上昇させる。 H27 夏期講習参加率(のべ) 1年 111% } 5P 上昇 2年 76% } 3年 113% } 「講習満足度」肯定意見 H27:68%をH30までに75%以上へ	イ H28 夏期講習参加率(のべ) 1年 11% 2年 47% 3年 49% (△) ・64%(△)
	(2) ビジネス情報コースの充実	(2) ・ビジネス情報コースの授業において資格取得に向けた取組みをさらに充実させ、H27 資格取得成果を効果的に発信してコース希望者の拡大を図る。	(2) ・H29 ビジネス情報コース選択者30名をめざす。	・11名であった。H28の3年生の希望進路の実現や資格取得の成果は前年を上回っている。ガイダンスに工夫が必要。(△)

府立泉大津高等学校

<p>2 「高い志」や「将来の夢」を実現する指導体制の再構築</p>	<p>(1)進路実現に向けたサポート体制の充実</p> <p>(2)3年間の生徒育成プログラムの構築</p> <p>(3)進路希望に応じた取組みの充実 ア 個々の進路に応じた情報提供</p> <p>イ 就職に関する指導</p> <p>ウ 進学に関する指導</p>	<p>(1)</p> <ul style="list-style-type: none"> 進路指導室および資料室の整備と活用 新たに設置したアクティブラーニンググループを進路実現に向けた主体的活動の場として生徒に理解させ、大いに活用させる。 <p>(2)</p> <ul style="list-style-type: none"> 「総合的な学習の時間」について、これまでの実施内容をふまえ総合学習検討委員会が軸となり、学校目標達成に向けた取組み計画を検討する。 「3年間トータルなキャリアプラン」のブラッシュアップを図るとともに、よりよい進路実現に向かって全教員で取組みを進められるよう目標共有から教員個々の意識の定着を図り、より質の高い実践へと進化させる。 生徒会主導の「毎朝のあいさつ運動」をコミュニケーションスキル向上の観点から学校生活全般におけるあいさつ推進の必要性を全教員で共有し、さらなる運動の拡大によりあいさつ習慣の定着を図る。 <p>(3)</p> <p>ア・進路個人カードを活用し、きめ細やかな進路指導を実施することで、モチベーションの効用とできるだけ早期の進路目標の獲得につなげる。</p> <ul style="list-style-type: none"> 教員による進路個人カード活用を進め、学校ミッションである進路実現への意識定着を図る。 <p>イ・就職主担を中心に就職希望者に指導や支援を行い、就職内定率100%を維持する。</p> <p>ウ・進路指導部主導で進学実現に向けた取組みの充実により自身の可能性実現の夢を抱かせ、挑戦する姿勢を育てチャレンジすることにより合格する生徒を育てる。</p> <ul style="list-style-type: none"> 進路指導部と学年が連携し、1年次より進路実現に向けた講習等、継続的な取組みを実施することで生徒一人ひとりの可能性を引き出す。 	<p>(1)</p> <ul style="list-style-type: none"> 資料室の活用状況の現状把握を行うことでさらなる活用に向けた方策を打ち出す。 学校教育自己診断 新規項目「進路指導室の活用」 肯定意見 生徒70% 教員80% 新規項目 アクティブラーニンググループ使用生徒に対して「今後も使用したい」肯定意見70% <p>(2)</p> <ul style="list-style-type: none"> 学校教育自己診断 「総学時間の活用」肯定意見の数値上昇 H27 教員82% 生徒68% 学校教育自己診断 「キャリアプラン肯定意見」の数値上昇 教員 H27:88% 新規項目 「進路実現に向けた取組みのさらなる充実」 目標：教員肯定意見65%以上 学校教育自己診断 「高校に入ってからあいさつするようになった」 生徒：68%→75%以上をめざす 「あいさつが増えた」 教員：70%→80%をめざす <p>(3)</p> <p>ア・1,2年次での質の高い進路目標の保有を図る。 <1年>H27 9月 72% <2年>H27 9月 84%</p> <ul style="list-style-type: none"> 学校教育自己診断 教員「進路個人カードの活用」 肯定意見65%以上 (H27:58%) <p>イ 1・2年生に対する取組みなど就職支援コーディネーターのさらなる活用(内定率100%の維持)</p> <p>ウ・「希望進路の実現」の数値向上 (H27:86%)</p> <ul style="list-style-type: none"> 講習の継続実施 	<ul style="list-style-type: none"> 就職コーディネーターと連携し、生徒が進路資料をより活用しやすいように整理して進路資料室をより実用的な部屋にする方策を検討する。 生徒51% 教員81% (○) 「AL室を利用してどうですか」肯定的意見90% (◎) 教員82% 生徒63% (○) 生徒に必要性を再度訴え、主体的に取り組むよう指導する。 78.3% (△) 87% (◎) 保護者向学教諭「進路・職業等について適切に指導している」が86%であり保護者の評価も高い。 生徒62.1% 教員68.9% (△) ア・<1年>H28 9月 97% <2年>H28 9月 86% (◎) 54% (△) 進路指導を重ねる中で有効なアイテムとして懇談等、様々な活用を考える。 イ・就職内定率は100% (◎) ウ・H28:95% (◎) 継続して実施した。(○)
------------------------------------	---	---	---	---

府立泉大津高等学校

3 豊かな心の育みと自主性および規範意識の育成・向上	(1)人権教育の推進	(1) ア・いじめ・差別をしないさせない意識を醸成し、安全で安心な学校づくりに努める。 ・人権教育推進委員会で人権教育に関わる各学年の取組みを総括し、学校行事やHR等における3年間のトータルな人権教育プランを作成し、充実を図る。	(1) ア 生徒、保護者向け学校教育自己診断の人権に関する指導に対する肯定率を上げる。 H27:1年64% 2年67% 3年86%	ア・生徒 1年64% 2年79% 3年77% 保護者 1年84% 2年80% 3年80% (○)さらなる充実を図る。
	(2)自主性の育成・向上 ア 生徒会活動の活性化	(2) ア・体育祭、文化祭の運営を生徒会生徒が主体的にできるよう教員がサポートし、自主性を育む。 ・生徒会・各クラス委員が連携し、教員とともに、「あいさつ運動」を継続展開し、「あいさつのできる学校」をめざす。	(2) ア・学校教育自己診断 生徒会活動肯定意見50%以上 (H27:48%) ・学校教育自己診断「あいさつができるようになっていく」肯定意見の生徒75%以上 教員80%以上 H27:生徒70% 教員76%	ア・41.1%(△) 活動内容は増えている。生徒会長による全校生徒へのアピールが少なかった。 ・生徒62.1% 教員68.9%(△)
	イ・部活動の活性化 ・部活動による中高連携の充実	イ・生徒会が中心となり入学時からの取組みの充実を行い、部活動加入生徒増を図る。 ・部活動における中学校との合同練習や試合を実施し、中学校との交流を活発化する。 ・夏季休業中における部員生徒による中学校訪問の実施。	イ・1年生の部活動加入率を50%に上げる。 H27:45% ・地元中学校との連携について、種目、回数を増やす。 H27 10クラブ 29回 ・訪問生徒数の把握を行い、次年度の活動に活かす。	イ・45.6%(△) あまり伸びなかった。 ・H28:8クラブ 28回(○) 日程が合わず断念したクラブも多い。 ・中学校を訪問した生徒 2年146人49% 1年199人59% ・中学校を訪問したクラブ員 2年87人52% 1年102人62%
	(3)規範意識醸成 ア 遅刻撲滅に向けた取組み	(3) ア 遅刻指導システムを定着させ、さらなる遅刻者数の減少を図る。	(3) ア 年間遅刻総数のさらなる減少をめざす。 H27:2505	ア・年間総数2687(1%増)(○) 1年生は1クラス増。2,3年生の遅刻数は減少した。
	イ 生徒と向き合う指導の徹底	イ・頭髪・制服指導等の3学年統一した指導基準で生徒と向き合う指導を通して、規範意識の醸成や問題行動防止等について生徒の学校生活を支援する。 ・昼休み巡回指導の必要性とその効果についての共通理解を図り、指導体制の充実を図る。	イ 昼休み巡回指導教員増と年間の継続。	イ・一部の生徒指導部員のみが年間を通じて実施。増員、充実させる必要がある。(○)
	ウ 交通マナーの向上	ウ・自転車通学者のマナー指導を警察と連携して行う。 ・講習会を実施する。	ウ・警察と連携し、学期に1回ずつ通学路指導週間を実施する。 ・講習会を実施する。	ウ・通学路指導週間3回実施(○) ・自転車講習会6/23実施(○)
	エ 集団行動の徹底	エ・始・終業式、学年集会等において、集合時間のさらなる短縮を図る。 ・避難訓練時は主体的な避難行動と集合時間のさらなる短縮をめざす。	エ・「聴く態度」・全校生徒が私語をせず、話す人に注目する。 ・避難訓練集合完了の短縮をめざす。 H27.5 7分37秒 9 5分22秒	エ・全体集会での落ち着き、聴く態度は定着(◎) ・5月 5分57秒(◎) ・9月 雨天中止
	オ 薬物乱用防止教育の推進	オ・これまで実施してきた薬物乱用防止の取組みをさらに充実させる。 ・薬物ブロックズの取組みを校外に発信し、薬物乱用防止の啓発につなげる。	オ・薬物乱用防止の取組み 生徒肯定率 80% ・ブロックズに1年生からの参加も募り20人以上にする。	・昨年度のブロックズ出前講演は1小学校のみ。今年度は2小学校1中学校に拡大。(◎) ・30人(◎)
	カ 美化意識のさらなる醸成	カ 生徒が主体的に清掃活動に取り組むよう保健部が中心となって啓発活動を行う。	カ 学校教育自己診断 新規項目 生徒向け「清掃活動を積極的に行っている」肯定意見60%以上	カ・69.1%(◎) 清掃活動に積極的に取り組んでいる。
	キ ボランティア活動の推進	キ さまざまなボランティア活動情報を提供し、参加生徒を募り参加させることで、自尊感情を高め、他者尊重の精神の涵養から社会に貢献できる人材育成を図る。	キ ボランティア参加生徒数の増加 H27:6事業 のべ80人参加	キ・H28:7事業のべ52人参加 (○)有意義な取組みを続けている。
(4)保健指導と教育相談体制充実 ア 生徒情報の共有化とカウンセリングマインドでの指導継続	(4) ア・教育相談研修やケース会議を実施し、担任だけでなく教員全体の知識・理解を向上させ、生徒支援体制を充実させる。	(4) ア 教員研修の充実 生徒向け学校教育自己診断「担任以外に気軽に相談に乗ってくれる先生がいる」の肯定意見 H27:57%→H28:60%以上	ア・56%(○) 5年前に比べて倍増している。取組みを工夫し継続する。	
イ 「高校生活支援カード」の活用	イ「高校生活支援カード」について教育支援委員会と教育相談委員会とが連携し、適切な対応を行う。	イ 学校教育自己診断で「教育支援委員会の効果的な運用」について教員肯定率80% H27:78%	イ・80%(○) 取組みを継続する。	

府立泉大津高等学校

4 総合的な 学校力の 向上	(1) 人材育成と 教員研修の充実	(1) ・経験の少ない教員やミドルリーダーの育成と各種教員 研修の充実	(1) ・教員向け学校教育自己診断の「初 任者等、経験の少ない教職員を学 校全体で育成する体制がとれて いる。」(H27:76%)の維持・向上 を図る。	・69% (△) さらなる向上を図る。
	(2) 教科指導充実	(2) ・ICT活用と実験・実習、体験的な教科指導の充実	(2) ・生徒向け学校教育自己診断に新規 項目「ICT活用と実験・実習、体 験的な教科指導の充実」を設け、 数値の向上を図る。	・55% (○) さらなる向上を図る。
	(3) 学校の組織的 運営	(3) ・学校の組織的運営および情報共有	(3) ・教員向け学校教育自己診断の「各 種会議が、教職員間の意思疎通や 意見交換の場として有効に機能 している。」(H27:67%)の維持・ 向上を図る。	・71% (○) さらなる向上を図る。
	(4) 広報活動の充実 ア 中学校、保護 者・教育関係者を 中心に積極的な 情報発信と広報 活動の充実	(4) ・情報発信の充実 ①学校HPの円滑な更新 ②中学生がさらに見やすいHPの作成 ・広報委員会による全校あげでの広報活動を充実させる。 ・保護者向けEメッセージ登録者の増加やPTAからの呼び かけを工夫し、学校行事等への保護者参加を促進する。	(4) ① HP更新回数の充実 各部活動ブログの更新 ② 「中学生の皆さんへ」を新設 H29 入学者選抜志願者数の増加。 Eメッセージ登録者の増加を図る (H27 6割登録)	① 概ね良好 (○) ② 新設した。(○) H29 入学者選抜志願者数 (◎) 志願者 359 人 / 定員 320 人 Eメッセージ登録者 (○) H28 6割登録
	イ 学校説明会と 中学校訪問の実施	・泉大津市近隣中高連絡協議会による中学との連携を深め る取組みを継続し、府立高校理解と進学意欲を高める。	中高での授業交流で参加教員満 足度 100%をめざす (H27:100%) 中学への出前授業で中学生満足 度 90%以上をめざす (H27:88%)	・H28:100% (◎) 継続する。 ・H28:100% (◎) 継続する。